



探究の授業はいつだって

自分見つけ

志太榛原地区高等学校 令和7年度探究学習実践事例集



株式会社 探究のミカタ

探究の授業って、地域課題を解決したり、何かを企画したり、発表したりする活動じゃないの？



合ってます



じゃあ
「探究の授業は自分見つけ」
ってどういうこと？

実は、みんなが今まで取り組んできた
「探究の授業」は、何のためにあるのかというと

自分がこれからの未来を生きていく上で
大事にしたい

好き・得意・嫌い・苦手なこと

こんなふうに生活したいという思い

(価値観)

を見つけるためなんです。

探究の授業では、いろいろな課題を見つけたり、
解決したりする活動をしますが、それをしながら
「自分はどんなことを大事にして生きていきたいか」
を考えることが一番大切なんです。



何で「自分見つけ」
が大事なの？

やりがいや生きがいをも
って、前向きに生活して
いけるからです

じゃあ、どうやって
自分見つけをすればいいの？

こんなときを思い出してみて！

良いなあ・自然とできるなあ
嫌だなあ・納得いかないなあ
と感じた課題や活動と、
そう感じた理由

「自分が」どう感じたか、「自分は」なぜそう感じたかを大事にしてください。友達や親にとっては嫌だったり興味ないな、ということでも、あなたにとっては良い・大事と感じることもあります。逆も同じです。価値観は人それぞれなのです。

※価値観は、生きていく中で変わったり増えたりするのが当たり前。
「今の私はこう感じる」でOK!

“もやっ”は “だいじ”の裏返し。

例えば、あなたが「勉強がつまらない。もっと楽しく勉強できたらいいのに…」と思っていたら、それはあなたの感じている立派な『課題』です。

そしてそれを裏返して考えたら、「勉強は楽しくやるのが大事だと思う」というあなたの『価値観』につながります。

ここからは、様々な学校の様々な探究活動の実践を紹介します。どの実践にも、なんとかしたいと感じた『課題』があります。あなたが共感する課題を探してみましょう。

志太榛原地区の高校 探究学習紹介ページ

島田商業高校 1年生

「カランコロン」を探せ！ゲーム感覚の地域探索からスタート！

取り組んだ課題 人通りが少ない…地域の魅力を伝え、まちを元気にするには？

1年生の総合的探究学習の時間は、講義形式ではなく「遊び」から始まります。「カランコロン」「キラキラ」といった抽象的なキーワードをくじ引きし、ゲーム感覚で街へフィールドワークに出かけます。生徒は楽しみながら地域資源を発見しますが、振り返りを通じて「人通りが少ない」「魅力が伝わっていない」といったリアルな地域課題に自ら気づきます。

この体験を生かし、2年生では興味をもった地域課題を商業視点で分析したり、3年生では、本格的な課題研究に取り組んだりする予定です。



市民ホールにて探究の成果を発表する様子

生徒の声

はじめは抽象的なキーワードに戸惑い、知らない人とのグループ活動にも緊張しました。

しかし、色や感覚をテーマに地域を歩く中で、神社のお参りの音など、普段は気づかない島田の魅力に気づくことができました。

また、商店街のさみしさや公園に人が少ない様子から地域の課題にも気づき、地域を盛り上げるために自分たちに何ができるのか考えるきっかけになりました。

教員の声

以前、探究学習の仕方について講義形式で教えていた時は生徒が退屈そうでしたが、教員が「教える」ことよりも、生徒が動くのを「伴走」する形を心がけてから生徒の目が輝き出しました。

1年生時は教員の専門性に関係なく、生徒の興味を面白がり、困った時には地域の方や得意分野を持つ先生に繋ぐ。あくまで支援者・助言者に徹することで生徒の学びが加速し、進路にもつながっていると感じています。

静岡県立島田商業高等学校

所在地 島田市

学科 商業科



島田商業高校
インスタ



島田商業高校
HP

ゼミ形式で探究！海浜清掃の輪を世界へ。

取り組んだ課題

海洋ゴミなどの環境問題から豊かな海を守るには？

焼津中央高校では、約半年間の学年を横断したグループによるゼミ形式の探究活動を行っています。先生の専門などから選ぶ「アカデミックゼミ」と、生徒が自分たちでテーマを決める「フリーゼミ」があるのが特徴です。

海洋ゴミを扱う班では、海岸での清掃や分析だけでなく、世界中に呼びかけて「オンラインで同時に海浜清掃への参加を申し込んだ人数」でギネス世界記録に挑戦しました。回収したゴミをキーホルダーにする「アップサイクル」など、環境問題を身近に伝える工夫もしています。

生徒の声

昨年度は2年生として、先輩の行っている研究を手伝うことでSDGsの知見がたまりました。今年度は3年生として研究に取り組む中で「自分で行動をした方が楽しい」と気づき、自分の好奇心に従って行動することの大切さを学びました。

海浜清掃を呼びかける際には、友達だけでなく多くの人に来てもらうために、どのように声掛けをするべきかよく考え、人を巻き込む力もつきました。

教員の声

「アカデミックゼミ」は、教員自身の教科・部活動・趣味・特技などを起点に主体的にテーマを設定しており、大学での研究活動に近い性質を持っています。一方「フリーゼミ」では、生徒がゼロからテーマを立ち上げ、自らの力で探究を進めていく姿が頼もしいです。

また、学年を越えて協働することで、上級生の姿から活動の進め方をイメージでき、自分自身の探究テーマを深く考えるきっかけになっています。



回収したゴミをキーホルダーにする様子

静岡県立焼津中央高等学校

所在地 焼津市

学科 普通科



焼津中央高校
SDGs探究活動
インスタ



焼津中央高校
公式HP

遺跡内解体作業に挑戦！探究メソッドを生かした課題研究

取り組んだ課題

歴史と伝統のある建造物を守っていくためには？

建築科の3年生は「課題研究」で、島田市の「川会所」に行き土壁をはがす作業に取り組みました。地元工務店さんに協力してもらい、実際の現場を手伝う貴重な経験で、模型製作に励む班もあります。実はこの活動、授業の最初に行った「学校の魅力を中学生に広めるには？」という課題解決の練習がもとになっています。

自分で考えて動く「探究」のやり方を学んだからこそ、歴史ある建物を守る活動にも自分たちで工夫して挑戦できています。現場での経験は大きな自信になります。

生徒の声

解体作業で部材を見ることで時代が分かることに驚き、多くの人が伝統を繋いできた歴史の重みを知りました。模型作りでは、手詰まりの仲間に「手伝おうか」と声をかけるなど、チーム全体に目を配る力が身につきました。

自分たちで考え抜き、立派な展示物を完成させた経験は、社会で働く上での大きな自信と勇氣になっています。

教員の声

本校では、公の施設の模型製作や設計図のコンペ応募など「作ったものを評価してもらう機会」があります。人前で何かを成し遂げた達成感は、次の活動にて一步を踏み出す勇氣につながります。これはどのような進路を選んでも大切なことです。

専門科目を活かした学びと実践ができるため、5教科の勉強が苦手でも、思考の柔軟さや手先の器用さに自信がある人は活躍できる場となっています。



川会所の土壁をはがす作業に取り組む様子

静岡県立島田工業高等学校

所在地 島田市

学科 機械科
電気科
情報電子科
建築科
都市工学科



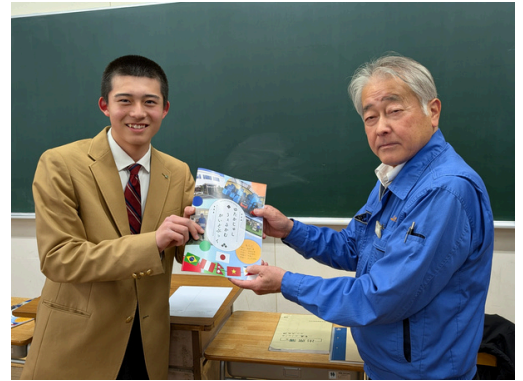
島田工業高校
HP

外国人社員へインタビュー！日本の良さや難しさって？

取り組んだ課題 海外出身の新入社員が、安心して日本で生活できるようにするためには？

用宗にある豊樹脂工業では、フィリピンやネパール、ベトナムなどの海外出身の社員が活躍し、生活を支える冷蔵庫やエアコンなどのプラスチック部品を製造しています。しかし、**海外出身の社員が来日後、出身国との様々な違いに戸惑ったり、不安に感じたりすることも多いので、日本の良さや基本的なルールなどを教えることにより、安心して生活できるようにしてあげたい、**という思いを持っていました。

そこで、島田樟誠高校の1年生は、まずこのミッションの担当者の方からこのような課題・思いを聞いた後、海外出身の先輩社員にインタビューをし、出身国と日本との違いや、お互いの良さ、来日後困ったことなどについて尋ねました。それらの情報をもとに、安心して生活できるための情報をまとめた、「**ウェルカムガイドブック**」を制作しました。



生徒の声

ベトナム出身の技能実習生の方に、休日の過ごし方や好きな食べ物などについてインタビューをしたり、ベトナムの慣習やルールなどについて調べたりして、国の違いを知ることができました。

また、会社に訪問し、部品の組み立ての仕様の様子を見せてもらいました。丁寧なのにとっても速くて、職人技を感じました。

参加社員の声

高校生の皆さんが外国人インタビューや会社見学で積極的に調査する姿がとても印象的でした。出来上がったガイドブックの「どうすれば伝わるか」を考え抜いたイラストや言葉の一つひとつに、強い情熱を感じました。この経験は、将来皆さんがどんな道に進んでも確かな自信になるはずで

す。この探究活動で培った「他者を理解しようとする姿勢」を大切にしてください。

豊樹脂工業株式会社

本社所在地 静岡市駿河区広野
事業内容 プラスチックの成型加工
組み立て加工



会社インスタ

冷蔵庫やエアコンなどのプラスチック部分の製造を通じて、みなさんが快適に生活できるように支える仕事をしています。

BBQで防災？！鉄板をヒントに災害に備えよう！

取り組んだ課題 防災について、身近に感じられるようにするためには？

駿河湾に面し、緑や花々などの自然豊かな吉田町にある、池田製作所。金属加工をしている会社ですが、「**静岡県の人々が、この豊かな自然を楽しみながら、防災を身近に感じて備えられたらいいのに…**」という思いをもっていました。

そこで、島田樟誠高校の1年生は、池田製作所が製作したソロキャンプ用鉄板を使って、避難所となっている学校のグラウンドで、カセットコンロを使った防災食BBQをしました。「冷たい防災食も、鉄板で焼くとおいしく食べられる」「小さい道具なら持ち運びやすいし使いやすい」など、楽しみながら防災について考えるきっかけになりました。

この活動で利用した鉄板をヒントに、見た人たちが**防災について考えるきっかけとなるための動画**を制作しました。



生徒の声

スタッキングアイアンプレートを使ったBBQでは、災害時に屋外で調理をすることになった場合のことを考えるきっかけになりました。

また班での活動の途中で、うまくいかないことがありましたが、社員の方が「失敗は財産だ」と教えてくださったので、失敗を糧によりよくしようと考えることができました。

参加社員の声

これからの皆さんには人の喜びを自分の喜びにできる「与える側（ギバー）」になってほしいです。

挑戦には必ず失敗がつきものですが、失敗を恐れず挑み続ければ必ず成長と成功につながります。困難や壁に出会っても諦めず、これからも果敢にチャレンジし続けてください。

株式会社池田製作所

所在地 榛原郡吉田町神戸
事業内容 精密機械部品の加工
及び組立



会社インスタ

精密な部品の製造を通じて、さまざまな会社の「この部品は作るのが難しいけど、こんな製品や大型機械を作りたい…」という思いを実現する仕事をしています。



地元企業が感じている課題を共有し、解決のため取り組むプログラムです。
企業と関わりながら実践的な学びをすることで、実社会とつながる機会となります。

焼津高校 2年生

おいしく母国を感じてほしい！ネギトロ×世界の料理

取り組んだ課題

海外出身の社員が母国を感じられるネギトロレシピって？

焼津市にある大坪水産株式会社は、ふるさと納税返礼品として人気のネギトロなどを製造している会社です。ネギトロはご飯に乗せるのが一般的ですが、「様々なレシピでネギトロを楽しんでほしい」と感じていました。また、この会社では海外出身の社員も多く働いているため、「ネギトロ料理で母国を感じてほしい」という思いも持っていました。

そこで焼津高校の2年生は、「ネギトロを使った国際レシピの開発」というミッションに取り組みました。海外出身の社員の方にインタビューをし、母国の人気料理や、どのような味付けが好みなのかを聞きました。その情報をもとに、ネギトロを使ってどんなおいしい料理ができそうか考え、試作を重ね、レシピを完成させました。作った料理は実際に海外出身の社員の方に食べていただき、感想をもらいました。



生徒の声

フィリピン出身の社員さんに好きな食べ物についてインタビューし、レシピを考えました。人それぞれに合ったものを考えることの楽しさを実感できました。

また、様々な国籍・年齢の人たちとの関わりを通して、社会ではいろいろな人たちが働いていることを知り、コミュニケーションが上手になりたいと思うようになりました。

参加社員の声

参加してくれた学生の皆さん、ネギトロを使った国際レシピの開発、お疲れ様でした！皆さんが外国人社員と真剣に向き合い、試行錯誤を重ねて完成させた料理は、どれもネギトロの新しい可能性を感じさせる、素晴らしいものばかりでした。

多様な国籍の人々と関わる中で学んだコミュニケーションの大切さを、ぜひこれからの生活に活かしてください。

大坪水産株式会社

本社所在地
事業内容

焼津市利右衛門
まぐろやかつおなどの水産物の製造加工・販売



会社インスタ

ネギトロを始めとした、美味しく安全な製品を作ることで、日本、そして世界の人が幸せを感じられるための仕事をしています。

迫力満点のはたらくのりもの！こんな世界があったんだ！

取り組んだ課題

港の荷役（にやく）現場の仕事を若者に知ってもらうには？

清水区にある東海埠頭株式会社では、海外からの大型コンテナ船から貨物（コンテナ）を下ろしたり積んだりする仕事をしています。しかし港湾の仕事の様子は普段見ることがなく、直接お客さんと関わったり、お店で売った商品を作ったりしているわけではないので、「若い人たちにこの仕事のことを知ってほしい」という思いを持っていました。

そこで焼津高校の2年生が「港ではたらくのりものを紹介する動画作り」というミッションに取り組みました。船からコンテナを吊り上げる大型クレーン、そのコンテナを載せるトレーラーなど、現場で活躍する様々な乗り物について、運転している社員の方にインタビューしたり、実際に現場に行って体験・取材したりしました。それらの活動を通して、世界とつながる荷役の現場について伝える動画を作りました。



生徒の声

現地での取材がとても楽しく、車で移動するほどの広さに驚きました。実際にトランスファークレーンに乗せてもらうと、巨大なクレーンゲームのようで大迫力でした。

今回の活動を通して、どんなに大きな機械や乗り物でも、より良い方法を考え判断し、動かしているのは「人」なのだと思えました。

参加社員の声

日常生活では目にする機会が少ない「港の荷役作業」ですが、高校生ならではの視点で魅力的な動画を制作していただき心より感謝しています。機械の迫力だけでなく、それを操る人の技術や判断力にも目を向けてくれたことを大変嬉しく思いました。

生徒さん制作の動画を通して、同世代の若い方々に港の仕事の魅力を広く伝えていきたいと思えます。

東海埠頭株式会社

所在地
事業内容

静岡市清水区横砂
港でコンテナ船からの貨物の積み下ろし（荷役）など海外からの貨物の載せ下ろしを通して世界と日本のモノをつなぎ、企業が生産活動をしたり、人々が当たり前の生活ができるよう支える仕事をしています。



会社HP



答えはいつも自分の中。
探究学習を通じて、
「私はどう思ってるのかな」
を考えてみよう。

協力：静岡県立島田商業高等学校
静岡県立焼津中央高等学校
静岡県立島田工業高等学校
学校法人島田学園島田樟誠高等学校
学校法人松薫学園焼津高等学校

製作：株式会社探究のミカタ



様々な人々との関わりや体験を通じて、高校生が自分自身を見つめ、自分の生き方について前向きに考えていけることを目指しています。



ホームページ



インスタ